

694  
2018年  
5月発行

# よろこびの泉

わたし(イエス・キリスト)が与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことがありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。  
新約聖書 ヨハネ4:14

発行所 奈良県生駒市門前町七-四〇 日本ミッション 〒630-0266 電話〇七四三(七三)一七五四 振替口座〇〇九〇-二六六四三番  
発行人 ファアベイ・D 編集人 日本ミッション編集部  
印刷所 〒350-0303 埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇 新生宣教団印刷部 電話〇四九(二九六)〇七二七



お茶をどうぞ  
草餅を添えて

**み愛**  
水野源三  
亡き母にかわって  
義妹が入れてくれた  
香り良い新茶を  
さめないうちに  
おのみくください  
できたら草餅も  
お食べください  
私を案じて  
お訪ねくださった  
そのみ愛だけで  
私は十分なのです

水野源三詩集「主にまかせよ汝が身を」より  
作者は小学四年の時、赤痢の高熱から脳髄炎を患え、首から下の機能を失う。十二歳の時聖書に出会いイエス・キリストを信じ、残された機能、目の瞬きにより詩を作られた。



**問** 僕はお父さんが卒業した私立高校へ進むことを目標に頑張ってきましたが、がっかりで新学期が始まったのに勉強する気をなくしています。どう気持ちを切り替えたらいいでしょうか。

**答** お父さんが自分の学歴にプライドを持ち息子の将来に大きな期待を寄せるのは世の常です。君が学校を選ぶ時、お父さんの「ここでなければ」という親の期待が刷り込まれて目標になり頑張ったのでしよう。しかしその学校に入れば完璧な人生を手に入れることが出来るという保証などありません。受験に失敗したことをいつまでも引きずって、折角自分に開かれた道で、やる気を失うことこそ不幸です。  
過日開かれたオリンピックでは世界中の人が大きな感動を受けました。92カ国から集まった2925人のアスリートたちが、日頃の練習と鍛錬の成果を競い観衆を沸かせましたし、日本人選手の活躍も見ものでした。その後続いて開かれたパラリンピックには49カ国、569人が参加し、オリンピックと同様、それぞれの種目で力限り活躍されました。  
「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」(ローマ8:28) (児玉 博之)

## 親と子のしあわせ 402

「女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子をあわれまないとどうかたとい、女たちが忘れても、このわたし(神さま)はあなたを忘れない。」(イザヤ49:15)

私には、三人の子どもがいます。長男は大学四年生、長女は高校三年生、次女は中学三年生です。来年の春はトリプル進学になりそうでドキドキです。先の聖書の言葉のように親は子どもを忘れない、いや忘れるはずがないと思います。でも私は忘れたのです。  
次女がまだ三ヶ月くらいの時だったと思います。子ども三人と図書館に行きました。我が家にはそのころテレビがなく、みんな本が大好きで図書館に本がよく通いました。今でもみんな本好きです。借りていた本をそれぞれ持って、私は乳飲み子の次女を抱っこして図書館に入り、今度はみんなそれぞれ自分が借りた本を持って車に戻りました。私も自分の借りた本を手に持って車に乗り込んだ時「あっ、忘れた」と思わず叫んでしまいました。「お



母さん何を忘れた？」と長男に聞かれ、「みーちゃん(みどり)」。本を持ってきて、みーちゃんを図書館のベビーベッドに寝かせたままだった。」長男と長女は、「えーっ、早く連れてこないよ、誰かに連れていかれるよ」と悲痛な顔。私はあわてて戻りました。みーちゃんは、ちゃんとベッドでおりこうさんにしていました。  
今となつては笑い話ですが、こんな母親です。本を忘れることがあったとしても子どもを忘れるなんて。うっかりにもほどがあります。次女にはもちろん「ごめんね」と謝りました。  
親は子どものためになんでもしてあげたいと思うのですが、時には親の都合で怒りすぎることもあり、反省します。お母さんも完全ではないことを自覚し、自分を振り返ることも必要です。神さまは、うっかりお母さんのことを忘れずに、愛してくださいっています。こんな者も、「お母さん」と呼ばれ、子どもに力と慰めをもらえることは嬉しいことです。うっかりお母さん！今日も神さまの愛をいただいて、子どもを愛していきましょう。  
(相原 幸紀美)

一年分 送料共 九〇〇円  
定価 一部 一八円

I面写真：高原幸男

●質問箱への投書(100文字以内)よろこびの泉に関するお問い合わせは lzumi@japanmission.org まで

# 愛の渦巻きの中に

## 私の救いと、母の救いと

大阪市 寺阪 拓



父子喧嘩を仲裁して下さった教会の人々にお礼が言いたいと母が初めて教会に……。気丈な母でしたが、私が聖書のみことばを読んで聞かせるうちに恐ろしくなり、心の目が開かれて、偶像の虚しさが分かり、同時に天地の造り主なる神様と御子イエス様の愛と真実を知ったのでした。

私の母、寺阪早苗は、男まさりのはっきりとした気性で、竹を割ったような性格でした。家族の中では、私が最初にイエス様を信じました。大学時代に友人の誘いで教会に通い出したのですが、私が教会に行くことを家族の中で一番反対していたのは母でした。世間知らずの私が、悪いやつらにだまされていると思っ、教会から届くいろいろな集案内を私に見せず、全てごみ箱に捨てていました。

### 母の結婚と苦悩

母は徳島県の生まれです。母が子どもの頃、日本は軍国主義の真ただ中。小学校では朝礼の時に現人神である天皇陛下の写真に向かって全員そろって礼をしなければならなかったのですが、母は子ども心に天皇陛下様も人間だと思っていたので、一人だけ礼をしなかったそうです。しかし、全員が頭を下げていたため一度も見つかりませんでした。

して、家出した私を家に泊めてくれた方に会って「お礼が言いたい。」

### 「教会に行ってお礼を言いたい。」

と母が言い出したのです。思いがけない展開から、母が教会に来てくれることになりましたが、それは春の特別伝道集会の日でした。私が教会に集うことを家族の誰よりも反対していた母は、嬉しくて母が来るのを待っていました。

そしてついにその時が来ました。母が教会の玄関に入り靴を脱ぎ去った時に、教会の中から、今までに経験したことのない凄く愛の渦巻きのような風が母に迫って来て、母はすくなく平安な気持ちを感じたそうです。この時母は、教会は良い所だなあと、これからは教会に来ようと思ったのでした。

それからは毎日、家で母と二人で聖書を読んでいます。そんなある日、ヨハネの黙示録二二章を読んだ時、目の前にいた母の顔が明らかに変わるのがわかりました。「わたしイエスは御使いを遣わして、……これらのことをあなたに告げました。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。……渴くものは来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。私は、この書の預言のことを聞くすべての者にあかしする。もし、これに付け加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。」母はイエス・キリストを信じる決心をし、救われたのです。母の顔は輝いていました。その時の様子は母が洗礼式の際に教会の皆さんの前で話した文章があるので紹介させていただきます。

### 母の証し

『昭和五十六年三月二十日。この日は生涯忘れ難い出来事。私の救われた日です。私には三人の子どもが居ります。長男は洗礼を受けて一年三ヶ月になります。その長男が、今までに何度も神様の事について話して居りましたが、私は頭から、イエス様は外国の宗教だと反対して心を閉ざして聞いていた事がありました。それが三月二十日、長男が聖書を読んでくれるのをすなおに聞いておりました。創世記、ルカによる福音書、ヨハネによる福音書、使徒の働き、ヨハネの黙示録と聞いておりました。何だか恐ろしくなってきました。と同時に、私が今まで拝んでいた神がどんなに素晴らしいものであるかと云う事がよくわかりました。世界で唯一の神様が天と地を創造され、地球の万物をお造りになった事。又、イエス様は神様のひとり子でいらつしやるにもかかわらず、罪多き私たちを救う為に十字架の上で神様の刑罰を受けて下さった事。又、三日目に死からよみがえられ、今でも天におられると思つて嬉しう気持ち一杯でした。私は早速今まで知らずに拝んでいた清荒神のお札を捨て、伊勢とか高野山で買ったお守りと般若心経を捨てました。今では教会の集会に行くのが楽しみです。少しでも聖書を学ばないと、毎日聖書を読み、家族が救われますようにと神様にお祈りしています。』

### 父にも福音の恵みが

父は晩年、糖尿病や心臓が悪くて入退院を繰り返して、母はずっと父の看病につきっきりでし

娘時代、大阪の生野区で散髪屋をしていて、店の客の中で一番まじめそうな男性を選んで一九五三年、二十八歳で結婚し、その年の暮れに私が誕生、その後、妹と弟が家族に加えられ五人家族になりました。父は、結婚当初はまじめに働いていましたが、友人と共同で会社を立ち上げ社長になってからは、家庭を顧みなくなり、仕事が順調に軌道に乗ると浮気をし、妾を作り、外に子供まで作って母を苦しめました。実際、母は子ども三人を道連れに無理心中をしかけたこともありました。しかし父の行状は変わることもなく、その後長く関係は続き、家の中の争いは繰り返されていきました。

### 母の証し

私は、二十七歳の時イエス様を救い主と信じ、阿倍野キリスト集会で洗礼を受けました。その頃の私は定職に就いていなかったため、これを機に落ち着いて働こうと考え、就職活動をしたのですが、その仕事の内容のことで父と大喧嘩になり、いきおい父が勘当を言い渡しました。売り言葉に買い言葉、私は荷物をまとめて家を飛び出しました。教会の責任者の方たちが「勘当された」と聞いて、何事が起こったのかと心配して集まってくださり、私から事情を聞くと、「それは、あんたが悪い。ただの親子喧嘩や。すぐにお父さんに謝りなさい」という結論になり、その日は、責任者の一人の方の家に泊らせていただき、翌日には、家に帰って父に素直に謝りました。実は父も厳しいことは言っていたものの、私がすぐに家を出て行ったので心配していたのだそうです。それは母も同じでした。そ

### 弟・妹も信仰に

現在私の妹は奈良に在住、二〇一〇年に大和王子の教会で洗礼を受け、弟も二〇一五年に受洗して私と同じ教会に集っています。家族全員が救われ神の家族とされたことは大きな喜びです。「そして、ふたりを外に連れ出して『先生がた。救われるためには、何をしなければなりませんか』と言った。ふたりは『主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。』と言った。」(使徒16・30、31)

